

「公共交通の利用」に関するアンケート報告

公共交通は、高齢者や学生などの自家用車（バイクを含む。以下「自家用車」という。）を運転しない方々にとって、日々の通院、通学、買い物などに必要不可欠な移動手段です。それだけでなく、公共交通は、地域づくり、まちづくりの重要な社会基盤でもあります。

そこで、公共交通の利用促進策の参考とするため、アンケートを実施しました。アンケートにご協力いただきましたe-モニターの皆様にお礼申し上げますとともに、アンケートの実施結果を下記のとおり報告いたします。

1 アンケート実施期間

平成21年2月4日（水）から2月27日（金）まで

2 意見募集の結果

(1) 対象者数 1,138名

(2) 回答者数 792名

(3) 回答率 69%

3 属性

(1) 性別 男性 53% 女性 47%

(2) 年代別

20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
86名	181名	201名	173名	123名	28名
11%	23%	25%	22%	15%	4%

(3) 地域別

北勢	中勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州
350名	202名	133名	77名	30名
44%	25%	17%	10%	4%

4 アンケート結果

Q1、Q4 「普段どの程度鉄道やバスを利用しているか」という質問に対し、「鉄道をほぼ毎日利用する」10%、「バスをほぼ毎日利用する」2%となっています。一方で、「鉄道をほとんど利用しない」「鉄道を全く利用しない」と回答した方は62%、「バスをほとんど利用しない」「バスを全く利用しない」と回答した方は88%になりました。

鉄道やバスを利用しない方が多いことを改めて認識させられました。

Q2、Q5では、鉄道またはバスを利用する方に、その利用目的を伺いました。

鉄道・バスともに最も多い利用目的は、「通勤・通学」（鉄道23%、バス29%）でした。ほかに鉄道では「買い物」での利用が22%、バスでは「買い物」「趣味」がともに18%と多くなっています。

Q3、Q6で、鉄道やバスをほとんど又は全く利用しない方に、理由を伺いました。

鉄道、バスともに、「自分（家族）が自家用車を運転でき、自家用車を利用したほうが便利だから」という理由が最も多い回答となりました。（鉄道35%、バス32%）

ほかに鉄道を利用しない理由としては、「駅が自宅から遠いから」（16%）が2番目に多くなっています。

一方バスを利用しない理由は、「運行本数が少ないから」（17%）、「自家用車と比較して移動に時間がかかるから」（14%）となっています。「バ

スは、最終便の時刻が早い」「時間どおり運行されない」といった自由意見もいただきました。

Q7 公共交通利用に便利な情報は何かを伺いました。

上位回答には、「自宅近くの駅、バス停の時刻表」が33%、「自宅から駅や病院・スーパー等に行く路線図」が26%、「運賃」が21%が挙がりました。

なお、自由意見では、「インターネットで調べれば十分である」との意見も複数いただきました。

Q8 公共交通の利用促進に向けて、最も効果的な広報の視点については、公共交通利用が自家用車利用と比較して、「CO2などの温室効果ガスを減らすことができ、身近に環境問題への取組を行うことができる点」との回答が33%と最も多くなっています。

次いで、「日々の通勤・通学、通院、買い物などに必要不可欠な移動手段を確保できる点」と回答した方が16%と多くなっています。Q1やQ4で自らは、公共交通を利用しないと回答された方でも、地域の移動手段確保のために、鉄道やバスは必要と考えていることが分かります。

Q9 環境や交通について考える1日として、自家用車を使わず公共交通を利用するよう努める「エコ通勤デー」等にご協力いただけるか伺いました。

最も多い回答は、「環境問題への対策として有効と考えるため、可能な限り協力する」(23%)となっているほか、「月に1日くらいなら協力できる」(14%)「年に数回くらいなら協力できる」(13%)「すでに利用している」(7%)と合わせて、57%の方がご協力いただけることが分かりました。

一方、協力できない理由としては、「利用できる公共交通が不便なため協力できない」(20%)「利用できる公共交通が近くにないため、協力できない」(14%)となっています。

Q10 利用促進のアイデアについて、自由意見をいただきました。

ポイント制：公共交通を利用したらポイントがたまり、ポイントに応じたサービスが受けられるなど

パークアンドライド整備：駅に無料又は安価な駐車場を整備するなど

無料デー・割引デー実施：月に一度バスが無料の日を設けるなど

送迎バス運行：会社側の協力を得て、駅から送迎バスに乗るよう促してもらうなど

公務員からの取組：まずは県や市町の職員がマイカー通勤をやめ、公共交通で通勤することが必要など

まちづくり：自家用車中心のまちづくりから、駅を中心としたまちづくりへの転換など

バスの定時性確保：バスレーン設置など時間どおりにバスが運行されるようなハード整備など

以上のほか、三重県の公共交通の現状では、利用したくてもできない地域のほうが多いのではないかという意見も複数いただきました。

まとめ

お忙しい中、ご回答いただきましたモニターの皆様には、改めてお礼申し上げます。

地域によって鉄道やバスの利用は難しいところがあるとは思いますが、公共交通の利用促進にご理解ご協力をお願いします。

ありがとうございました。